



奈良文化財研究所創立七十周年記念式典を挙行

2022年11月30日、奈良文化財研究所創立七十周年記念式典が馬淵澄夫衆議院議員をはじめ、約150名のご出席を得て、盛大に執りおこなわれました。

はじめに、本中真所長より、「奈良文化財研究所は法人化により文化財・文化遺産の保存・活用の施策に資する調査研究のナショナルセンターとしての役割を担うこととなりました。今後とも、南都奈良、飛鳥・藤原をはじめとして、全国および世界各地の貴重な文化財・文化遺産の保存・活用に貢献し、そのための人材を積極的に育成するとともに、最高水準の調査研究の成果を皆様にお届けできるよう、取り組んでまいる所存です。」と式辞が述べられました。

続いて、馬淵澄夫衆議院議員より、「奈文研が奈良の地で日本の歴史を紐解く重要な拠点としての活動を続け、深めてこられたことに敬意を表します。私たちは我が国の社会のありようを文化財というものから学ばなければなりません。奈文研が文化財やその研究により、ますます発展、成長をされることを祈念します。」とご祝辞をいただきました。また、都倉俊一文化庁長官、島谷弘幸国立文化財機構理事長、荒井正吾奈良県知事よりご祝辞をいただきました。



本中所長の式辞

た。加えて、奈文研と学術交流を深めてきた中国社会科学院をはじめとする海外機関からのご祝辞や祝電が披露されました。

元職員の工楽善通氏からは、昨年9月に逝去された田中琢元所長の、長きにわたる奈文研事業へのご尽力やお人柄を、ユーモアを交えてお話をいただきました。

式典の後半では、所長より、奈文研の組織や調査研究分野の変遷、2018年の新庁舎竣工等、奈文研のこの10年のあゆみを紹介したのち、昨年から所員全員で議論し、取りまとめられた、「奈文研MVS(ミッション、ヴィジョン、ストラテジー)2022」を公表しました。

続いて、研究職員から、最新の研究成果や研究成果の社会還元等、多様な調査研究活動の紹介があり、「奈文研」をご出席の方々にご理解いただく良い機会となりました。

最後に、高妻洋成副所長より、「保護すべき文化財の種類やその保護のあり方が多様になっており、奈文研が取り組むべき課題も拡がりをもってきています。このたび取りまとめられた奈文研のMVSを通して、総合知をもって文化財を守っていくための調査研究活動に取り組んでまいります。」と閉会の挨拶をおこない、盛会のうちに終了しました。

(研究支援推進部 小野 一代)



工楽善通氏の田中琢元所長への弔辞